

# 令和5年度 第1回伊那北高等学校評議員懇談会報告

学校評議員運営委員会

- I 日時：令和5年7月7日（土） 15：30～17：10
- II 会場：高志館1階研修室
- III 出席者：〔評議員〕有賀 泰司（義務教育関係） 平松 浩二（大学関係）  
傳田 智子（上伊那広域連合） 福澤 栄造（自治会関係）  
松井 秀之（企業関係） 岩崎 靖（同窓会関係）  
竹中 恵子（保護者）  
〔職員〕学校長 教頭 事務長 齋藤（教務） 桐生（進路・学校評価）  
半場（生徒指導） 瀬戸（生徒相談） 武田（CPA）  
山岡（PTA） 中村（職場代表）
- IV 次第：（司会：教頭）
- 1 委嘱状交付
  - 2 学校長挨拶
  - 3 自己紹介
  - 4 本校の概況について
    - (1) 進路指導（桐生） (2) 生徒指導（半場）
    - (3) 生徒相談（瀬戸） (4) 学校評価（桐生・倉澤）
    - (5) CPA（武田） (6) PTA（山岡）
    - (7) その他《スクールミッションについて》（倉澤）
  - 5 意見交換
  - 6 学校長挨拶

## 1 意見交換会で出された意見等のまとめ

### （1）学校教育全般について

- ・「生徒にとって1回だけの高校生活」を学校として大切にしていることが理解できた。同時にこのことにより、生徒一人一人に輝きを求めていることに繋がっていると感じられた。また、大学入試に特化した指導だけではないことがわかり良かった。
- ・大学ではアクティブラーニングがなかなか実践できない。高校ではグループ学習がしっかりできていることに感心した。
- ・授業が工夫されており、生徒が生き活きと学んでいる。
- ・オンラインによる学びの状況について
  - 休校の際ややコロナ感染者によりやむを得ず学校に来ることができない生徒に対しては、基本的に授業のオンライン配信ができるよう、授業担当者へ依頼している。実際のところ、かなりの授業で配信を実施している。
- ・新型コロナ等に関わっての部活動等の制限について
  - コロナの5類移行後は制限もなく以前に近い状況まで戻っている。
- ・ICTの活用の現状や課題等について
  - ICTの活用においては板書時間の短縮や視覚的効果が大きいことがあげられる。スライド作成等の準備には時間がかかる部分もあるが、教科書や問題集の付属のパワーポイント資料も充実してきており、多くの教員が無理なく使っている。
- ・進学校として学習を軸に「競争力」も身に着けてほしい。将来は人のために尽くす気持ちを持ってほしい。その基礎となるのが、学生時代と考える。部活動や友達・行事を大切に、思いやりと忍耐力の育成をお願いしたい。
- ・自分の人生は高校生活で培われてきた。生徒のメンタル面での強化をお願いしたい。

- ・部活動を起因とする生徒の悩みの状況について  
→部活動における生徒間での人間関係で悩む生徒が若干はいる。
- ・ペン祭を含め学校行事が実施されたことは生徒にとっても良かったと思う。来校者も多く、保護者がわが子の姿を直に見られたことに意義があると思う。

#### (2) 生徒指導及び基本的な生活習慣について

- ・自転車のヘルメット着用の徹底をお願いしたい。また、着用数を把握した方が良いのではないか。
- ・不登校の生徒で転退学した生徒がいると聞く。いなくなることを願っている。
- ・授業参観で校舎内を移動しているときに、美術の授業で絵を描いている生徒が、さらっと道を開けてくれた。生徒の何気ない行動に品の高さを感じた。
- ・保護者送迎の際の駐車位置を考えてほしい（山寺上村線の渋滞）。

#### (3) 学習・進路指導について

- ・授業参観の際、生徒がスマートフォンを使いながら真剣に調べている姿が印象的であった。英語の授業では4人グループで考えを出し合い、発表へとつながる様子を見学できた。「令和の学び」が実践されていた。教室全体がしっとりとした学びの雰囲気でも包まれていた。
- ・大学入試では推薦型入試の定員が増加している。受験指導についてどのように対応しているのか。教員側から生徒に対して、推薦、一般を割り振るようなことは行われているか。  
→最終決定はあくまでも生徒に求めているが、個々の生徒の適性を考慮した助言を担当が行っている。
- ・大学受験の際、面接対策として頭の中に知識をいっぱい詰め込んできて、そのこと一所懸命に話そうとする生徒が多いが、結果として個性が見えず高評価が得られない傾向にある。高等学校ではどのように面接指導をしているのか。  
→探究活動で取り組んだことを面接に生かすようにアドバイスしている。自分の興味のあることや高校で自分がやってきたことを話せるようにしている。
- ・国公立大学進学者の割合が多い。生徒が国公立大学を選択する理由について教えてほしい。  
→まずは経済的な理由が挙げられる。地域に戻り活躍したいと思っている生徒も多い。地域に戻りにくい大学もあり、どこを志望校にするのが良いか助言することもある。一方で私立大学の志望も多くなっている。学校としては私立大学の魅力の発信も今後は必要と考えている。大学であの先生に学びたいとか、自己実現のための選択も大切にしたいと考えている。

#### (4) 情報発信について

- ・フォレストコーポレーションで開催された校長先生の講演を聞いて学校の探究的な学びとこれからの企業に求められる人材育成が共通していると感じている。現在、企業で働いている人は受動的な学びで育ってきたため、探究的な学びで育ってきた次世代の人材が入社してきたときに、現社員が対応できるか心配している経営者もいる。新しい時代の学びの変化を外部へ発信し、変化を伝える機会を増やしてほしい。
- ・昨年度に比べHPの掲載が早くなった。
- ・クロスペンフォトレターが復活したことは良かった。
- ・地域に伊那新校再編計画の情報発信をお願いしたい。

#### (5) 再編計画について

- ・統合計画が進むと、伊那北駅が伊那の中心になる可能性が大きい。伊那市駅近くの「いなっせ」には学習施設があるが、「きたっせ」にはそういった施設がない。これから駅前の再開発計画が進められるが、学習施設やトイレの整備を市へお願いしていく。また、生徒数が増えることによる交通問題も懸念される。  
→伊那市との話し合いやその対応策について今後検討していく。

- ・自転車置き場を見ると、高級自転車が目に付く。伊那新校では自転車置き場の工夫も検討してほしい。

#### (6) その他

- ・スクールミッションにおいて、自己実現＝自己を深めていくことが、社会貢献へと繋がってほしいと思う。また、産官学と保護者との関係をどのように考えれば良いのか。強靱かつ柔軟とあるが、強靱・柔軟どちらを先にするかを検討してほしい。
- ・地域は高校生を大切にしている。高校生との一体感が地域にはある。
- ・先生の働き方改革を進めてほしい。
- ・PTA活動も再開され、特にクリーンアップはありがたかった。
- ・登校坂脇の私有地にニセアカシアの大木がある。登校に危険であるので対応を検討してほしい。
- ・同窓会で自転車の転倒防止のために空気ポンプを購入した。いつでも使えるので生徒へ伝えてほしい。
- ・学校評価において、過去の数値があると比較もしやすいので資料として準備をしてほしい。
- ・CPA講演会、とても良かった。

## 2 今後に向けて

本校の教育活動及び生徒の様子等については一定の評価をいただいた。特に探究的な学びとそのため地域との連携について各委員から高評価をいただくことができた。懇談会でいただいたご意見、ご助言を真摯に受け止め、今後の教育活動に活かしてゆく。